

Mr. Bassman (ベースマン列伝) vol.17

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Israel Crosby 【イスラエル・クロスビー】



Photo: Israel Crosby (1959)

Profile

1919年1月19日、米国伊利ノイ州シカゴ生まれ。5歳の頃にトランペットを始め、その後トロンボーンとチューバを修得。15歳の頃にベースに転向し、地元シカゴのクラブ「Club de Lisa」でアルバート・アモンズ(p)の元で演奏していた35~36年頃にジョン・ハモンド(vo, harm, g)に見出され、ジーン・クルーパー(ds)とのレコーディング(Gene Krupa and His Chicagoans 名義)が実現。僅か16歳で自身がフィーチャーされた「Blues Of Israel」という曲で長いベース・ソロを残している。36~38年にフレッチャー・ヘンダーソン(p)、40年にスリー・シャープ・アンド・ア・フラット、40~41年にホレス・ヘンダーソン(p)、40~42年にティディ・ウィルソン(p)のグループに参加。その後は10年近くCBSのスタジオ・ミュージシャンとして活動。そして、51年にアーマッド・ジャマル(p)のトリオに参加し62年まで在籍。また、その間ベニー・グッドマン(cl)楽団のアジア・ツアーに参加し、57年1月に来日を果たす(1月16日産経ホール公演で「Trigger's Fantasy」でフィーチャーされた)。その後、ジョージ・シアリング(p)のグループで活動中の1962年8月11日、心臓発作のためシカゴの病院にて死去。ジョージ・シアリングのアルバム『ジャズ・モーメンツ』が遺作となった。享年43歳。

センスの良いウォーキング・ベースにノック・アウト！

《ウォーキング・ベースの職人＝リロイ・ヴィネガーとの接点》

“モダン・ベースの開祖”と称され、20代前半夭折した伝説のジャズ・ベースマン＝ジミー・ブラントンに比肩すると考えられるイスラエル・クロスビーは、オーソドックス&堅実で派手なソロをとるようなタイプのベースマンではないが、変幻自在に動き回るセンスの良いウォーキング・ベースやリズム・パターンには独特の存在感がある。

また、ウォーキング・ベースの職人と称された本誌『The Walker's』由来のベースマン＝リロイ・ヴィネガーとも接点があり、リロイ・ヴィネガーは地元インディアナポリスを離れ、ニューヨーク進出を果たす前の肩慣らしのために1952年にシカゴに移って来たが、地元シカゴでレギュラーの仕事を持っていたイスラエル・クロスビーがベニー・グッドマン楽団に参加するためシカゴを離れる際に、リロイ・ヴィネガーを自分の後釜として紹介している。低く重く太く力強く、スピーカーを歪ませ、時々スキップしながらこちらに迫り来るようなリロイ・ヴィネガーのウォーキング・ベースともひと味違うが、イスラエル・クロスビーもウォーキング・ベースの職人のひとりといえよう。

そんなイスラエル・クロスビーの伝説の名演として語られているのはジーン・クルーパーの「Blues Of Israel」、ティディ・ウィルソンの「Blues In C Sharp Minor」で、この2曲は『ファンタジスタ！～あしたのジャズ』(右頁参照)で聴ける！

動くイスラエル・クロスビー

イスラエル・クロスビーがウッドベースを弾く映像を見たのなら『ジャズ・マスターズ I ~ヴィンテージ・コレクション 1958-1961』(WPBR-95062 [DVD]) がお薦め！ アーマッド・ジャマル・トリオで「ダーン・ザット・ドリーム」「アーマッズ・ブルース」の2曲を演奏するシーンが拝めるが、筆者が初めてイスラエル・クロスビーの存在を知ったのがこの「ダーン・ザット・ドリーム」での演奏シーンだった。アーマッド・ジャマルのクールなプレイも最高だが、ここで聴かせるイスラエル・クロスビーのウォーキング・ベースのカッコ良さは今でも忘れない。

シカゴ出身のジャズマン

イスラエル・クロスビーの他にシカゴ出身のジャズ・ベーシストだけでも、アル・マッキボン、ウィルバー・ウェア、リチャード・デイヴィス、ロニー・ブラキシコなどがいるが、ベーシスト以外にもアーマッド・ジャマル(p)、ラムゼイ・ルイス(p)、レニー・トリスターノ(p)、ジュニア・マンス(p)、ハービー・ハンコック(p)、サン・ラ(p)、ベニー・グッドマン(cl)、ジョー・ジョーンズ(ds)、トニー・ウィリアムス(ds)、ジャック・デジョネット(ds)、クワフォード・ジョーダン(sax)、アビー・リンカーン(vo)にクインシー・ジョーンズ(prod, tp)など、大物揃いだ！

IC's Featured Album

米国の Apollo Records にて「Israel Crosby Quartet」名義で少なくとも4曲の録音(恐らくEP盤)を残しているが、リーダー作としてアルバムは残していないと思われる…。

存在感を決定付けたアーマッド・ジャマル・トリオの代表作 & 超名盤



バット・ノット・フォー・ミー アーマッド・ジャマル・トリオ

(ユニバーサル・ミュージック:UCCU-5128)

1961年のライブ音源2枚組み!

アーマッド・ジャマル鉄壁のトリオ



Complete Alhambra And Blackhawk Performances Ahmad Jamal Trio (Jazzlips: JL-759 [Import])

Ahmad Jamal (p),
Israel Crosby (b),
Vernell Fournier (ds)

[Disc-1] 1. We Kiss In The Shadow 2. Sweet And Lovely 3. The Party's Over
(他、[Disc-1] 13曲、[Disc-2] 14曲、全27曲)

イスラエル・クロスビーの遺作となつたジョージ・シアリングの名盤



ジャズ・モーメンツ ジョージ・シアリング

(EMIミュージック・ジャパン:TOCJ-6881)

ジョージ・シアリング (p),
イスラエル・クロスビー (b),
バーネル・フォーニア (ds)

1. メイキン・フォービー 2. 恋とは何でしょう
3. ホワツ・ニュー 4. ライク・サムワン・イン・ラヴ 5. ハート・オブ・ウィンター (他、全12曲)

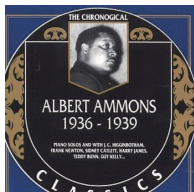
あのマイルス・デイビス (tp)にも声をかけられたアーマッド・ジャマル (p)が伝説のトリオ(=イスラエル・クロスビー & バーネル・フォーニア)を従えて、1958年1月16日シカゴの「バーシング・ラウンジ」で行ったライブ演奏を収めた「超」が付くほどの名盤! シカゴでの活躍を理由にマイルスの誘いを断ったアーマッド・ジャマルだが、それは正解だったといわざるを得ないほどの素晴らしい内容を誇り、イスラエル・クロスビーのベースもいぶし銀の存在感を放つ!「ミュージック、ミュージック、ミュージック」など必聴曲満載!

ジャケットも渋く、『バット・ノット・フォー・ミー』と同じく、アーマッド・ジャマルが鉄壁のトリオを率いて行った1961年のシカゴ「ALHAMBRA」とサンフランシスコ「BLACKHAWK」での貴重なライブ音源を収めた2枚組CDで、元々『AHMAD JAMAL'S ALHAMBRA』『ALL OF YOU』『AT THE BLACKHAWK』として3枚別々にリリースされていたものが、ひとまとめでまとめられた。全27曲収録で、「Dam That Dream」なども収録されている。イスラエル・クロスビーのベースはこのトリオで最高に輝く由縁が実証される!

ジョージ・シアリングが珍しくトリオ編成で挑んだ作品で、1962年6月20日と21日に録音されたが、この録音から約50日後にイスラエル・クロスビーが心臓発作で帰らぬ人となり、イスラエル・クロスビーの生前最後のプレイを収めた作品でもある。共にアーマッド・ジャマルの鉄壁のトリオでリズム・セクションを担っていたバーネル・フォーニア (ds)と共にジョージ・シアリングをサポートするという点においても大変興味深い。裏ジャケットには「ダウンビート」誌に掲載されたイスラエル・クロスビーへの追悼文が記載されている。

IC's Support Album

アーマッド・ジャマル・トリオでの名演がクローズアップされがちだが、チャーリー・クリスチャンやジーン・クルーパーとの共演をはじめ、いぶし銀の名演を多数残している。



Albert Ammons 1936-1939 Albert Ammons

(Jazz Chronological Classics: 715 [Import])

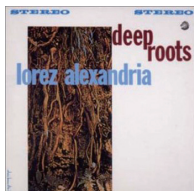
イスラエル・クロスビーが1935-36年(16-17歳の頃)に共演したアルバート・アモンズ (p)が1936-39年に残した音源を収録。日本盤未発売。



メモリアル・セッションズ・イン・ジャズ エドモント・ホール / チャーリー・クリスチャン

(EMIミュージック・ジャパン:TOJJ-5026 [LP])

イスラエル・クロスビーがジャズ・ギターの開祖=チャーリー・クリスチャンと1941年2月に共演した歴史的音源4曲を含む全6曲収録のLP盤。



ディープ・ルーツ ロレット・アレキサンドリア

(ユニバーサル・ミュージック:UCCC-3010)

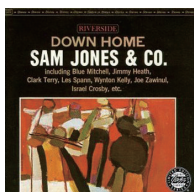
イスラエル・クロスビーと同じくシカゴ出身の女性ヴォーカリスト、ロレット・アレキサンドリアが1962年にシカゴのアーゴ・レーベルに残した名盤。



Reflections Earl Washington Trio

(LP TIME: LPT-1022)

シカゴ出身のピアニスト、アール・ワシントンがイスラエル・クロスビーとバーネル・フォーニア (ds)を従え1963年に録音した2枚目のリーダー作品。



Down Home Sam Jones & Co.

(Original Jazz Classics:OJC-1864)

ベーシストのサム・ジョーンズ (b, cello)が1962年にリバーサイドに残したリーダー作で、イスラエル・クロスビーとロン・カーターがベースで参加。



ファンタジスタ! ~あしたのジャズ Various Artists

(NAXOS / TOWER RECORDS:TWJZ-1)

本誌編集長が選曲・解説・構成を手掛けた6枚組豪華CDボックス。イスラエル・クロスビーの伝説の名演2曲(左頁中段参照)も収録!